

平成28年度-(科目：政治経済)指導と評価の年間計画 第(3)学年用(2)単位

目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する認識を深めさせることによって、現代における政治、経済、国際社会等
【学習指導要領】	についての客観的な思考力を培い、良識ある公民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み	・社会問題についての具体的な事例を提供する中で、基本的な知識の理解を図り、とりわけ現代の社会が抱える問題については適切な課題設定を行い、自らの考えを深化させるとともに、問題解決に向けての方策を考察する。 ・主題学習では、発言・討論等も実施し、自らの考えを明確にし、論理的に表現したり、異なる意見との比較考察を行い、思考力・判断力・表現力の育成に努める。
【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	・普段の授業だけではなく、定期考査においても観点別の問題を作成することにより、知識・理解のみならず思考力・判断力・表現力も評価できるよう工夫する。

月	単元名	使用教科書項目	時 実	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
4月	第1編 第1章 民主政治の基本原理	(1)政治と法 (2)民主政治の原理と発展 (3)世界の政治体制 (4)民主政治の混乱と課題	2 2 1 1	・政治とは何かを認識させ、社会契約説を理解させる。 ・民主政治の理念とその実現の歴史を学ばせる。 ・各国の政治制度の違いについて理解させる。 ・民主政治の今日的課題を考えさせる。	行動観察 レポート 小テスト
5月	第2章 日本国憲法の基本的性格	(1)日本国憲法の成立 (2)平和主義 (3)基本的人権の保障 (4)人権のひろがり	2 2 2 1	・2つの憲法を比較してその理念の相違について理解させる。 ・平和主義の理念とその解釈について理解させる。 ・人権の確立の歴史を学びながら、人権保障の意義を認識させる。	行動観察 レポート 小テスト
6月	第3章 日本の政治機構	前期中間考査 (1)立法 (2)行政 (3)司法 (4)地方自治	2 2 2 1	・国会の組織・権限・機能を理解させる。 ・内閣のしくみとその役割について理解させる。 ・司法の役割やその独立の意義を考えさせる。 ・地方自治のしくみを学び、その意義について考える。	行動観察 レポート 小テスト
7月	第4章 現代日本の政治	(1)戦後政治の歩み (2)選挙制度と政党 (3)政治参加と世論	2 2 2	・戦後政治の変化と政党政治の役割について理解させる。 ・日本の選挙制度と現状について理解させる。 ・世論の役割、マスメディアの責任について考えさせ、民主政治の今日的課題を理解させる。	行動観察 レポート 小テスト
9月	第5章 現代の国際政治	(1)国際政治の特質と国際法 (2)国際連合と国際協力 (3)現代国際政治の動向 前期末考査	2 1 2	・国際的連帯と協調の必要性について認識させる。 ・国際法の歴史と特質を明らかにし、その役割を認識させる。 ・国際連盟の限界、国際連合の目的・機能を理解させる。	行動観察 レポート 小テスト
10月	第2編 第1章 経済社会の変容	(4)核兵器と軍縮 (5)人種・民族問題 (6)国際政治と日本  (1)資本主義経済の発展 (2)グローバル化と現代資本主義経済	1 2 1  2 2	・平和共存・第三世界の視点から国際政治を考えさせる。 ・戦後日本の外交政策と歩みを理解させ、日本の役割を考えさせる。  ・国民生活における経済活動のあり方・影響を考えさせる。 ・資本主義経済の特徴と歴史、経済思想の歩みを認識させる。	行動観察 レポート 小テスト
11月	第2章 現代経済のしくみ	(1)市場機構 (2)現代の企業 (3)国民所得と経済成長 (4)金融のしくみ (5)財政のしくみ 学年末考査	1 1 1 2 2	・家計・企業が経済活動に果たす役割と影響を考えさせる。 ・市場経済における需要と供給について理解させる。 ・通貨と金融の役割、及び中央銀行の金融政策を理解させる。 ・財政の役割、財政政策を理解させ、租税負担について考えさせる。	行動観察 レポート 小テスト
12月	第3章 現代経済と福祉の向上	(1)日本経済の歩み (2)日本中小企業と農業 (3)国民の暮らし (4)環境保全と公害防止 (5)労使関係と労働条件の改善 (6)社会保障の役割	1 2 1 1 2 1	・戦後日本の経済活動とその問題点について考えさせる。 ・日本経済の二重構造について考えさせる。 ・消費者問題について理解し正しい消費生活について考える。 ・過去の公害問題と現在の環境政策について理解する。 ・労働問題に触れることで職業に関する意欲を持たせる。 ・社会保障のしくみについて理解する。	行動観察 レポート 小テスト
1月	第4章 世界経済と日本	(1)商品・資本の流れと国際収支 (2)国際経済体制の変化 (3)金融のグローバル化と世界金融危機 (4)地域経済統合と新興国の台頭 (5)経済協力と人間開発の課題	1 1 2 2 1	・自由貿易の考え方と歴史を保護貿易と比較して理解させる。 ・国際間の貿易のあり方と現状について理解させる。 ・経済摩擦の背景を日米貿易摩擦を中心に理解させる。 ・EPA や FTA など地域経済統合の長所について理解させる。	行動観察 レポート 小テスト
2月	第3編 現代社会の諸課題	(1)地域社会の変貌と住民生活 (2)中小企業の新しい変化 (3)農業、農村と食糧、環境問題 (4)雇用と労働をめぐる問題 (5)これからの社会保障の在り方 (6)地球環境の保全と経済成長 (7)原子力と再生可能のエネルギー (8)人種・民族問題 (9)国際経済格差の是正と国際協力 (10)国際社会における日本の立場と役割	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・高度経済成長以後、地域開発の問題点を認識させる。 ・中小企業の現状と将来性について考える。 ・日本の農業の現状と課題、食糧問題について考えさせる。 ・労働問題の歴史、労働基本権の内容について理解させる。 ・社会保障の意義やしくみ、課題について考えさせる。 ・環境保持と経済成長の両立について考える。 ・石油危機後の資源・エネルギー問題について考えさせる。 ・グローバルな視点で民族問題について考えさせる。 ・国際的視野に立った社会問題について考えさせる。	行動観察 レポート 小テスト
		合計時間数	70		

# 単元指導計画

## 単元の名前 「グローバル社会と地域主義の動向」

1 基軸となる問い：グローバル社会において、人類益を実現する地域経済統合はどのような形か？

2 単元の目標

グローバル化と地域主義の動きの双方が進んでいる現状とその課題について理解し、地域統合の意義とその課題を踏まえて、人類益を実現するためのよりよい国際経済体制を考察する。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
グローバル化の進む国際経済に対する関心を高め、その特質を意欲的に探究し、客観的に考察している。	グローバル化の進む国際経済において、各地域における主な特徴や課題を多面的・多角的に考察し、様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	グローバル化の進む国際経済に関する諸資料から、学習に役立つ情報を適切に選択し、効果的に活用している。	グローバル化の進む国際経済の特質について理解し、その知識を身に付けている。

4 指導と評価の計画（4時間）

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
第 一 次	1、グローバル化する世界経済 【ねらい】グローバル化の進む国際経済の特質について把握させる。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化に関する時代別の資料を比較し、その推移を踏まえることで、国際経済は何が変わったのかを読み取りまとめる。</li> <li>現在の国際経済の動向を、グローバル化の進む国際経済の特質を理解し、そのメリットとデメリットについて意見交換する。</li> </ul>			●		<ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバル化に関する諸資料から有用な情報を読み取り、まとめている。（プリント記述）</li> <li>● ○経済活動が地球的規模で自由に行えるようになっている現状について理解している。（授業の発言、プリント記述）</li> </ul>
第 二 次	2、地域経済統合の成立 【ねらい】各地域における地域統合の特徴について把握させる。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>エキスパート・ジグソー活動によりEU、ASEAN、NAFTA、メルコスールの特徴を資料から読み取り、まとめる。</li> </ul>			●		○各地域における主な地域統合の特徴について理解し、その知識を身に付けている。（プリント記述、観察）

第三次 ～時本～	<p>3、地域連合体「EU」の現状と課題（本時）</p> <p>【ねらい】EUの現状を通して、国際経済の中でEUが直面している課題について考察させる。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパート・ジグソー活動により、EUのメリットとデメリットについて意見交換する。</li> <li>・EUの抱えている具体的課題について考察する。</li> </ul>	●			<p>○国際経済の特質とEUの現状に関わって探究する具体的な課題を見出し、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。</p> <p>（プリント記述，観察）</p>
第四次	<p>4、グローバル化と地域主義の動向</p> <p>【ねらい】「人類益」を実現することができる国際経済体制を模索し、地域統合がグローバル社会の中でどのように変わっていくかについて考察させる。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人の利益を実現できる地域統合の在り方を考え、その内容を根拠に基づいてプリントにまとめる。</li> </ul>	●	●		<p>○習得した知識・技能を活用し、地域統合のむかう方向性について考察し、適切に表現している。（プリント記述，観察）</p>

# 学 習 指 導 案

教科(科目)	公民科(政治・経済)	単元名	グローバル社会と地域主義の動向(3時間目/4時間)
本時の主題	EUが抱える諸問題から地域統合の在り方を考える。		
本時の目標	EUが抱える諸問題を具体的な事例から多面的・多角的に考察し、文章で表現させる。		
評価規準	国際経済の特質とEUの現状に関わって探究する具体的な課題を見出し、多面的・多角的に考察し適切に表現している。(思考・判断・表現)		

指導の内容・ねらい	学習活動	指導上の留意点・観点別評価
<p>前時後半部のあらすじ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時につながる学習活動</li> <li>・エキスパート活動の実施</li> </ul>	<p>○前時の内容</p> <p>①以下の中からいずれかのパートを割り当てる。 (a)人の移動 (b)域内格差 (c)経済的統合</p> <p>②与えられたパートの視点からSQ1とSQ2を個人で考える。</p> <p><b>SQ1</b> EUを評価できる点は？ <b>SQ2</b> EUを評価できない点は？</p> <p>③エキスパート班で意見交流をしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の移動班を14人、域内格差班を14人、経済的統合班13人に分け、エキスパート資料を配布する。</li> <li>・エキスパートごと4(5)名で集まり、3パート×3班=計9班作り、エキスパート活動を行わせる。</li> </ul>
<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習</li> <li>・テーマ確認</li> </ul>	<p>(活動1) 復習クイズでEUの特徴をペアで確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シェンゲン協定で <b>人の移動</b> が自由に！</li> <li>・ 東欧への拡大で <b>域内格差</b> が生まれる！</li> <li>・ <b>共通</b> の通貨であるユーロの導入！</li> <li>・ 貿易の際に <b>関税</b> がかからない！</li> </ul> <p><b>本時のテーマ</b> EUで今、何が起きているのだろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアワークを円滑に行い、議論しやすい雰囲気作りをする。</li> <li>・ 「人の移動」、「域内格差」、「経済的統合」の3つの観点が、EUの特徴であったことを確認させる。</li> </ul>
<p>01分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー活動の実施1</li> </ul>	<p>(活動2) エキスパートとして考察した内容を発表しよう。</p> <p>①ジグソー班に分かれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の移動担当1名、域内格差担当1名、経済的統合担当1名</li> </ul> <p>②SQ1とSQ2について互いの意見を交流する。</p> <p><b>SQ1</b> EUを評価できる点は？ <b>SQ2</b> EUを評価できない点は？</p> <p>○予想される解答例</p> <p>(a) 人の移動班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人労働者を受け入れることで安価な労働力を確保した。(+)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の移動が自由になり、テロリストもEU圏内に入りやすくなった。(－)</li> </ul> </li> </ul> <p>(b) 域内格差班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 域内格差を利用し労働賃金が安い国に進出することが可能になった。(+)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 格差は正のため、大半の予算が使われている。(－)</li> </ul> </li> </ul> <p>(c) 経済的統合班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分業体制の確立で他の地域に対する競争力が向上した。(+)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各国の景気に合わせた経済政策を取ることが困難である。(－)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パートが被らないように3(4)人×12班を作り、ジグソー活動を行わせる。</li> <li>・ 「資料の○番から～と読み取れ、△△であると考え」と根拠に基づいて意見を提示させる。</li> <li>・ 仲間の意見が根拠に基づいたものであるか評価しながら聞き、曖昧な場合は質問させる。</li> <li>・ 話す順番やジグソー活動の手順はあえて示さず、自主性を重んじて活動させる。</li> </ul>

5 1 展開 2 分	<p>・ジグソー活動の実施 2</p>	<p>(活動 3) ジグソー班で E U が抱える具体的な問題を考察しよう。</p> <p>①ジグソー班ごとに以下の課題のいずれかを与え資料を提示する。 (a) 難民問題 (b) ギリシャ通貨危機 (c) イギリス E U 離脱</p> <p>②資料をもとに、S Q 3 にグループで取り組む。</p> <p><b>S Q 3</b> E U の抱える課題を整理しよう。</p> <p>(予想される解答例)</p> <p>(a) 難民の受け入れ問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シェンゲン協定によって人の移動の自由が認められていることによつて、難民もヨーロッパを自由に移動し、管理に困る国が続出している。</li> <li>・国ごとに歴史や経済状況の相違もあり、難民対応策が一致せず E U 分裂の火種となっている。</li> </ul> <p>(b) ギリシャ通貨危機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ E U 加盟国が一国でも経済危機に陥ると E U 全体の問題となり、共通の経済政策を取ることもできないので、域内格差が深刻な影響を与える。</li> <li>・経済格差があるにも関わらず貧しい国が共通通貨ユーロを使用することで、返せないほどの借金を重ねる国が増加した。</li> </ul> <p>(c) イギリス E U 離脱問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスが E U を離脱することによつて、 E U の求心力が低下する可能性がある。</li> <li>・独仏主導に対して東欧諸国の不満は募り、新しい E U 作りに暗雲が立ち込めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開 1 で構成したジグソー班ごとに課題を提示し、 S Q 3 に取り組ませる。</li> <li>・ 3 パート × 4 班 = 1 2 班。</li> <li>・エキスパート活動で担当した分野と関連付けて考察させる。</li> <li>・エキスパート活動と関係がある部分には赤で線を引くように指導する。</li> <li>・資料から読み取った課題を整理することに加えて、そこから考察した意見も書くように指導する。</li> <li>・資料から読み取った E U の課題をプリントに書き込むように指示をする。</li> </ul>
1 ( 3 開 展 分	<p>・ MQ の提示と解決</p>	<p>(活動 4) MQ を考えよう。</p> <p><b>MQ</b> E U の抱える課題は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MA を簡潔にパネルに書き込み、黒板に貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルを書く際、大きな字で分かりやすく記入することを留意させる。</li> </ul>
0 1 まとめ 分	<p>・クロストークの実施</p> <p>・宿題の提示</p>	<p>(活動 5) 全体で意見の交流をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主だった意見の説明を聞く。</li> <li>・教員の説明を聞く。</li> </ul> <p>(活動 6) MA を自分の言葉でまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 200 字程度の文章で表現し提出する。</li> <li>・宿題として提示。</li> </ul> <p>※条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人の移動」、「域内格差」、「経済的統合」のキーワードを用いる。</li> <li>・資料などの根拠を踏まえて課題を表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人の移動」、「域内格差」、「経済的統合」の功罪と絡めてまとめる。</li> <li>・一つの共同体である E U が危機的状況にある点を指摘する。</li> </ul> <p>【評価】国際経済の特質と E U の現状に関わって探究する具体的な課題を見出し、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

## 地域連合体「EU」の現状と課題

**MQ** 地域統合としてのEUの成立で何が変わったのか？

**問い** EUについて知っていることを挙げてみよう。

### 1. EUの誕生と統合への歩み

**SQ1** 何故、EUは結成されたのか？

- ・戦争の原因でもある仏独国境線沿いの資源を共同に管理することで(平和)な世の中を実現しようとした。
- ・米ソの冷戦期に、両陣営に対抗できる(経済)圏を作ろうとした。
- ・国境を自由に移動できることで、人々の豊かな(暮らし)を目指した。

(1) 第二次大戦後のヨーロッパ → 「一つのヨーロッパ構想」

- ・文化的一体性は強いものの、戦争を繰り返してきた→独と仏による資源獲得争いなどが一つの原因。
- ・戦後、ヨーロッパは植民地の喪失で経済的地位が低下。
- ・東西冷戦構造の成立 →チャーチルの「鉄のカーテン演説」

1952 欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)設立

1958 欧州経済共同体(EEC)+ 欧州原子力共同体(EURATOM)

1967 欧州共同体(EC)発足…原加盟国 ①西独 ②仏 ③伊 ④ベルギー ⑤オランダ ⑥ルクセンブルク

(2) EUの成立と統合

1993 欧州連合(EU)に発展←マーストリヒト条約発効

1995 シェンゲン協定

2002 共通通貨ユーロが流通 ※イギリスやデンマークは不参加

2004 東欧諸国加盟により25カ国に拡大。

2009 リスボン条約採択…政治的統合を目指す、加盟国の自主性をある程度認める。

ギリシャ通貨危機…ユーロの価値低下を招く→PIGS(ポルトガル・イタリア・ギリシャ・スペイン)

2013 クロアチアが加盟し、加盟国は28カ国に(2007年にはルーマニア、ブルガリアが加盟)

**SQ2** シェンゲン協定によって何が可能になったか？

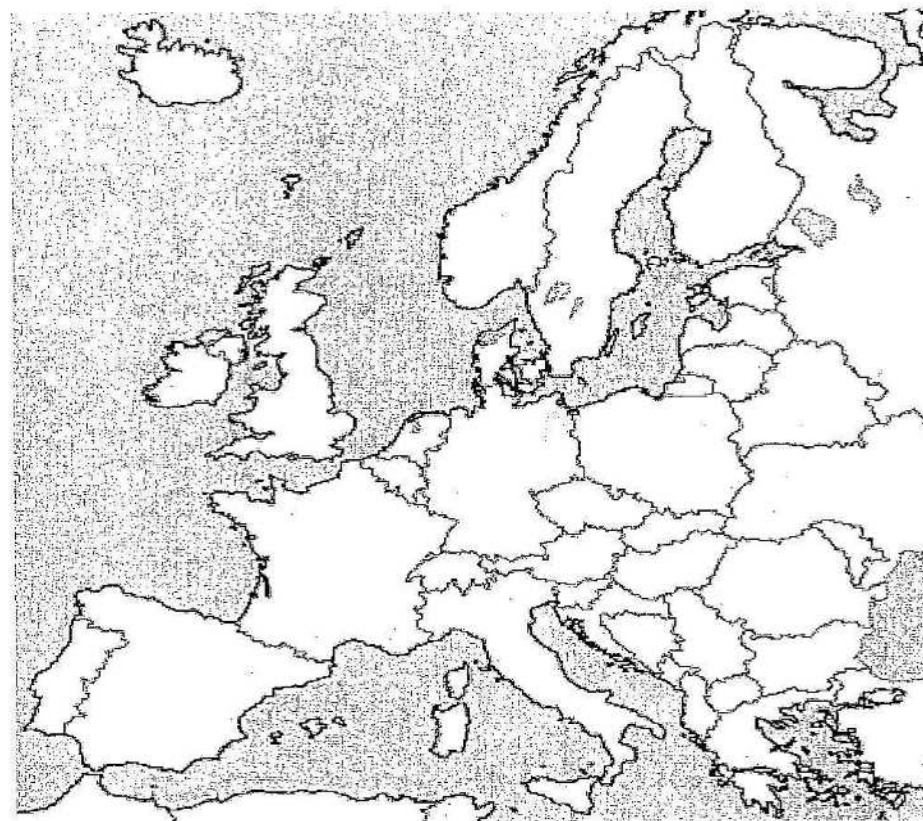
- ・シェンゲン圏内であれば、国境でのパスポートや身分証の提示なしで(人)の通過が自由に行えるようになった。

**SQ3** EUにおける経済的統合の象徴は何か？

- ・(ユーロ)の導入。「ヒト」、「モノ」、「カネ」の移動が流動的になった。
- ・(関税)がかからない。EU圏内では「モノ」、「サービス」の移動が自由に。

**SQ4** EUの東欧拡大はどのような意味を持っているのか？

- ・かつての(社会主義)勢力を取り込み、真の意味で冷戦を終わらせようとした。
- ・経済的に貧しい国が加盟することで、EU内で(格差)が生じることとなった。



**MA**

○自分の意見

○まとめ

- ・シェンゲン協定によって「人の移動が自由」になった。
- ・東欧への拡大により、「域内格差」が生じた。
- ・共通通貨ユーロの導入や関税がかからないことで「経済的統合」が実現した。

## ○授業の事後分析と今後の方向性

### 1、授業研究会を踏まえた成果と課題

#### ■ 授業の各場面について

##### ①導入

- ・クイズ形式で発問し、ペアでその解決に臨み、前回の重点事項を互いに説明することで理解を深めると同時に、グループワーク前のアイスブレイク的な役割を果たす活動となった。

##### ②展開1（エキスパート活動の共有）

- ・「資料〇から」、「以前学習した△の知識から」など根拠を示して発言させることを徹底できた。
- ・グループワークを日頃から行っていることもあり、内容を分かりやすく伝えようという生徒の積極的な姿勢がみられた。

##### ③展開2（ジグソー活動の実施）

- ・少人数で班を構成したため、一人ひとりの読み取りの出来と表現法によって理解度が高い班と低い班に分かれてしまった。
- ・個々のエキスパート活動と EU が抱える課題とが結びつきづらい組み合わせもあったため取り上げる資料に工夫が必要であった。

##### ④展開3～まとめ（MQの解決）

- ・ホワイトボードにMAを要約した内容を書かせる活動を取り入れることで、EUが抱える問題点の根本を理解させられた。
- ・時間がない中での活動となり、EUが抱える3つの課題全てに言及することができなかった。

#### ■方法・内容について

- ・エキスパート活動で各分野の専門家として読み取らせた内容をジグソー活動の中でアウトプットし交流させることで、多面的・多角的な視点から EU が抱える課題を考えさせることができた。
- ・内容が盛り沢山であり、時間に余裕がなかった。内容を精選し、EUが抱える課題を絞るなどの改善が必要と感じた。

### 2、参観者による講評

#### ■ 授業の各場面について

##### ①導入

- ・最初5分間のアイスブレイクの活動が授業を通しての良き雰囲気作りの役割を果たし、活発な授業となった。
- ・知識を活用させるために、ペアワークでは、生徒に思考させる問いを投げかけて本時につなげられると良かった。

##### ②展開1（エキスパート活動の共有）

- ・生徒は、自身の役割に責任を持ち、発言者に分かりやすく伝えようという姿勢が見られた。
- ・活動前の指示が的確で、生徒は見通しを持って授業に臨むことができていた。

##### ③展開2（ジグソー活動の実施）

- ・展開1と共通点がある部分に赤の線を引かせることで、授業の展開に連続性を持たせていた。
- ・EUが抱える課題を複数の視点から考察することで、内容が深まっていた。
- ・班の構成員の学力によって活動の質が異なったため、グループ活動中の教員の役割が重要で意図的な関わりが必要だった。

##### ④展開3～まとめ（MQの解決）

- ・ホワイトボードを用いて黒板に貼らせることで、EUが抱える課題を視覚的に理解させていたのは良かった。
- ・EUが抱える課題をもう少し深く全体で考えた方が良かった。時間との兼ね合いもあるので内容の精選が必要であった。

#### ■方法・内容について

- ・アウトプットの機会を増やしたりジグソー法を用いたりすることで主体的な学びを実現していた。
- ・生徒自身に EU が抱える課題を複数の視点から考察させたい意図は伝わったが、発表やクロストークをさせた後に、教員に

よる振り返りやまとめる時間をもう少し増やしてポイントをおさえる必要があった。

### 3、生徒の視点から

#### ■研究授業後のアンケート

##### ①生徒の自己評価

※4段階評価。（4 かなりできた 3 ある程度できた 2 あまりできなかった 1 できなかった）

※対象人数は41名

質問項目	4	3	2	1
A 今日の授業の理解度は高いですか？	78%	10%	12%	0%
B 分野のエキスパート(専門家)として資料の内容を仲間に分かりやすく伝えられましたか？	61%	32%	7%	0%
C 仲間のエキスパートな意見を聞いて、MAに対する自分の意見は深まりましたか？	88%	12%	0%	0%
D ジグソー活動でエキスパートな視点から発言、考察できましたか？	37%	24%	27%	12%
E MQ:「EUの抱える課題は何か？」を資料や根拠をもとにまとめることはできましたか？	72%	21%	7%	0%

- ・Cの質問は全員が4か3の高評価であり、エキスパート活動が上手くいった成果と言える。
- ・Dの質問で2と1の低評価をした者が4割程度存在し、ジグソー活動とエキスパート活動の接続に問題があったと言える。
- ・Eの質問で2と1の低評価をした者が7%と少なかった。EUが抱える課題をそれぞれが認識できたと感じた結果である。

##### ②授業の感想（生徒の記述を原文のまま抜粋）

- ・自分の視点だけではなく友達の見点を取り入れることで、EUがどのような課題を抱えているかより深く認識できた。
- ・EUを題材とすることで、地域統合の難しさを改めて感じ、日本も地域とどう関わっていくかを考える局面にあると感じた。
- ・世界史で学んだ知識を、経済的な視点で改めて見ると、違った世界が見えてきて面白かった。
- ・班で議論するような授業が久しぶりで面白かったし、深く学べた。このような授業をもっとやってほしい。
- ・ジグソー活動が難しかった。自分のエキスパートな視点から上手く話ができなかった。

#### ■年間の「政治・経済」の授業に対する評価（無記名）

##### ①生徒の教員に対する授業評価

※4段階評価。（4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満）

※対象人数は200名

質問項目	4	3	2	1
A 話し方がはっきりしていてよくわかる。	81%	16%	3%	0%
B 授業の進む速さはちょうどよい。	70%	22%	6%	2%
C わからないところや難しいところをきちんと説明してくれる。	71%	15%	14%	0%
D ペアワークやグループワークを中心とした授業方法は良かった。	88%	10%	2%	0%
E 学力が身に付いたと感じる授業が多かった。	87%	13%	0%	0%

- ・3年生の政治経済の授業は、教員による重要事項の説明を開始の20分程度とし、残りの30分はペアワークやグループワークを用いたMAを解決する活動や重要語句や要点の説明活動をできる限り多く行うようにした。質問D・Eで「満足」又は「やや満足」の割合が高いのは、アウトプットを多く取り入れた授業スタイルが生徒に受け入れられた結果と考えられる。
- ・質問Cで「やや不満」と答えた数値が14%とやや高い。講義の時間が短い分、内容を焦点化し教科書に書かれている記述の中でも特に重要な箇所を中心に学習しているため、難しい知識を習得したい生徒にとっては物足りないのだと考える。

##### ②年間を通しての授業の感想（生徒の記述を原文のまま抜粋）

- ・能動的に考える時間や仲間と交流する時間が多く、曖昧なところを再確認できるので、理解度が高まったと感じる。
- ・教科書のどこが重要であるか理解できるようになり模試の点も上がってきたので、この授業スタイルを継続してほしい。



・最初は講義の時間が短く不安であったが、考える機会が増えて問題を解く上で何がポイントか理解できるようになった。

#### 4、今後の授業に向けた提言

参観者の指導・助言、生徒の授業アンケートでの回答や感想を踏まえて、今後は以下の3点を意識して授業プランを構築したい。

##### 1 アウトプットする機会の確保

公民の授業は単位数が少ないこともあり、知識や技能をインプットさせることのみになりがちである。しかし、1時間を通して知識をインプットさせることに比重を置いて、受け身な生徒はすぐに知識を忘却してしまうという光景がよく見られる。そこで、今後は、知識をインプットさせた上で生徒にアウトプットさせる機会を授業のどこかで必ず設けることを徹底したい。この活動によって、知識が定着し、知識の活用や思考する機会にもつながると考える。具体的には以下の方法で行う。

- ①ペアワークによって重要語句の説明や知識の確認を行う。
- ②〇×形式や4択問題を演習問題として提示し、個人で臨んだ後に、何故その答えになったかペアで説明作業を行う。
- ③MQを提示し、授業で学んだ知識や提示した資料から考察させ、ペアで交流し、全体で表現する機会を設ける。
- ④エキスパート、ジグソー活動等を用いて多面的・多角的な視点から考察させ、クロストークで全体共有をしてまとめる。
- ⑤授業で学習した内容に関するディベート等を実施する。

##### 2 「教える」部分と「考えさせる」部分のバランス

前項で述べた方法でアウトプットする機会を設けることで、生徒の意欲は高まり学力は効率的に伸びると考える。しかし、アウトプットの時間を取りすぎると、教員が重要事項を教えるインプットする時間が短くなり肝心な内容が教えられない可能性がある。教員は単元を通して何が重要か把握し、「教える」部分と「考えさせる」部分のバランスをどうするか検討することが重要である。内容やテーマの重要度に応じて、前項①～⑤の方法を段階別に行う。具体的には以下の基準に照らして実施する。

- ・知識を確実に定着させたい → ①・②
- ・単元として考えさせたいテーマがある → ③
- ・多面的・多角的に考察させたい → ④
- ・生徒に価値判断をさせたい → ⑤

##### 3 授業のゴールの提示と「評価」の工夫

教員は、「何を教えるか」「どのように教えるか」「何のために教えるか」等を踏まえてMQを設定し授業を実施するが、生徒にこういった力を身につけて欲しいか言及することを見落としがちで、授業終了後に一方通行な場であったことに気付くことも多い。そのため、毎時間目標を示すことに加えて、評価の観点と授業のゴールを生徒に提示することが重要であると考え。生徒自身が目標到達点や評価方法を知ること、より効果的な学びが実践され、半ば誘導的に生徒をこちらが意図した方向に向かわせることもできる。単元全体を見渡して身に付けて欲しい力と評価の観点・方法を検討し、「指導と評価の一体化」を意識したい。

## ■ 考查問題例

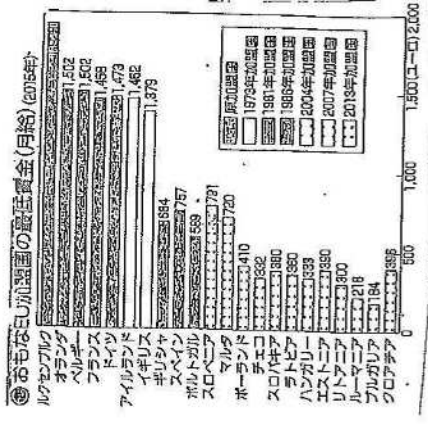
① 次の資料2は、「EU」に加盟している17カ国における自動車生産台数の推移」を示したものである。この資料からオランダについてはそのようなことが読み取れるか。また、その背景にあるものとして考えられる内容を2004年にEUで起きた事象と資料3の「EU諸国の最低賃金」を踏まえて論述せよ。【技能、思考・判断・表現】

(資料2) EU加盟国の自動車生産台数の推移

国名	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
ドイツ	5,757,719	5,915,814	6,199,921	6,045,770																													
フランス	2,979,487	2,777,416	2,889,203	2,841,644																													
イタリア	3,549,008	3,174,260	3,018,954	2,866,878																													
英国	1,803,108	1,840,352	1,750,253	1,549,715																													
スペイン	1,028,052	1,211,954	1,344,112	1,020,774																													
オランダ	926,928	919,054	834,023	723,018																													
ポルトガル	448,956	453,182	594,744	445,118																													
ギリシア	211,480	247,312	176,242	176,152																													
オーストリア	263,194	274,012	242,068	150,871																													
オランダ	138,568	130,754	107,749	102,494																													
ベルギー	21,644	38,746	24,229																														
EU15国計	16,920,032	16,672,671	17,009,816	16,444,972																													
ドイツ	6,024,237	6,248,411	6,585,237	6,444,922																													
フランス	3,047,024	2,874,424	2,999,203	2,906,707																													
イタリア	3,761,198	3,396,068	3,185,150	2,977,744																													
英国	1,844,001	1,892,097	1,759,253	1,559,715																													
スペイン	1,014,028	1,200,962	1,344,112	1,020,774																													
ポルトガル	448,956	453,182	594,744	445,118																													
ギリシア	211,480	247,312	176,242	176,152																													
オーストリア	263,194	274,012	242,068	150,871																													
EU17国計	18,113,166	17,622,432	18,077,502	17,272,059																													

(出典)『日刊自動車新聞社』

(資料3) EU加盟国の最低賃金



(出典)『東京法令出版地理図説』

② シェンゲン協定によってヨーロッパで「人の移動の自由」が原則認められた。このことによるメリットは計り知れないが、頭を悩ます面もある。フランスとハンガリーもその一カ国である。どちらか一方の国を選び、「人の移動の自由」の観点における、両国のデメリットを授業で学習した知識を踏まえて論述せよ。【思考・判断・表現】

## ○ 評価資料・考査問題例

### ■ 授業後の宿題

- ①MQ = 「EUの抱える課題は何か」に対する解答【思考・判断・表現】
  - ・ 200字程度で解答する。
  - ・ EUが抱えている課題を一つ挙げ論じる。
  - ・ 「人の移動」、「域内格差」、「経済的統合」のキーワードから一つ選び、EUが抱える課題の背景にある物に必ず触れる。
- ②授業を通して、EUの現状についてどのようなことを考えたか解答【関心・意欲・態度】
  - ・ 200字程度で授業を受けての感想を書く。

### ■ 授業後の確認問題

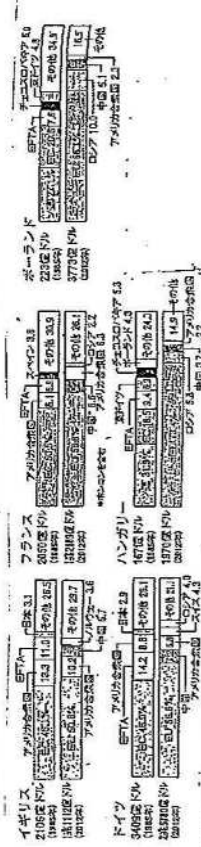
- 次の各文を読み正しい文章には○を、誤っている文章には×をつけよ。【知識・理解】
- ① 欧州共同体(EC)は、欧州連合条約(マーストリヒト条約)の発効により、欧州連合(EU)に発展した。
  - ② 冷戦終結に伴い、1990年代には旧東欧諸国が次々とEUに加盟した結果、域内格差の問題が深刻化した。
  - ③ シェンゲン協定によって、EU加盟国の国籍を持たず、全てのEU加盟国への移動が国境検査なしで可能となった。
  - ④ EU加盟国の中で共通通貨ユーロが導入されたが、加盟国の中で独自の通貨を使用し続ける国も存在する。
  - ⑤ ギリシャ通貨危機はEU加盟国内に波及し、イタリアやドイツに深刻な影響を与えた。
  - ⑥ 国内に難民が流入することを防ぐため、他国の反対を押し切り切り国境沿いにフェンスの設置を強行した内陸国が存在する。
  - ⑦ アラブの春以後、北アフリカから社会保障制度が充実した北ヨーロッパ諸国などへ多くの移民が移ってきた。
  - ⑧ ヨロップにおいて地域統合が進展し、ポーランド、ハンガリー、トルコなどが加わり、EU加盟国数は増加した。
  - ⑨ EU加盟国間に経済格差がある状況で共通通貨ユーロを使うことは、ギリシャ通貨危機の一因と言える。
  - ⑩ 英国がEU離脱を選んだ背景には、失業者や難民の受け入れ数の増加、ユーロ使用の強制などがある。
- ・ 授業実施後、単元のまとめとして以下の手順で行った。
    - ① 個人で5分間解く。その際、根拠を持って答えを考えさせる。
    - ② ペアワークを行い、奇数問題は右の席の者が、偶数問題は左の席の者が答えとその根拠を述べる。
    - ③ ペアの問題の解法が正しかったかカードバックを互いにする。
    - ④ 全体で答え合わせをする。

### ■ 口頭試験の出題例

○ 以下の文章を読んでそれぞれの問いに答えよ。【技能、思考・判断・表現】

次の資料1は、「1985年と2012年におけるイギリス、フランス、ポーランド、ドイツ、ハンガリーの5カ国の貿易総額と貿易相手国、地域の割合」を示したものである。この資料から読み取れることを踏まえて、EUが統合したことによるメリットとデメリットを貿易の観点から述べよ。

(資料1) EU加盟国の貿易総額と貿易相手地域の推移



(出典)『帝国書院地理資料集』